

島嶼の持続可能な経営の研究

— マジヨルカ島の観光開発の要因 (1950-2010) —

Research on tourism destination management on islands:
Factors of tourism development in Mallorca (1950-2010)

七 枝 敏 洋

NANAEDA Toshihiro

要 旨

2019年, スペインのバレアレス諸島州は年間1645万人の観光客を受け入れた。翌年, コロナ禍 (Covid-19) による行動制限の影響で観光客数は約80%まで減少したが, 2022年には1650万人まで戻した。人口のおよそ15倍の観光客を受け入れたことになる。バレアレス諸島は夏冬の季節が明瞭で, 観光客は夏にマジヨルカ島に集中している。1950年代以降, ドイツ, 英国, スペイン人に人気の観光リゾートである。住民人口を遥かに超える観光客が訪ねるこの島は, 持続可能な観光への転換を模索している。ツーリズム発展の過程を, Richard ButlerのTALCモデルに観光客の推移に照らし, 観光の導入期, 成長期, 成熟期, 衰退期, その後の停滞, 回復の過程を社会経済面から観察と分析を行い, 段階の要因を考察するものである。

Abstract

In 2019, Spain's Balearic Islands received 16.45 million tourists. The following year, this number declined by about 80% owing to the coronavirus pandemic (COVID-19); however, by 2022 it had returned to 16.5 million. This indicates that the islands received about 15 times more tourists than its population. The Balearic Islands have distinct summer and winter seasons, and tourists throng Mallorca in summer. It has been a popular tourist resort for Germans, Britishers, and Spaniards since the 1950s. The island, which attracts far more tourists than residents, is seeking a shift towards sustainable tourism. This study examines the process of tourism development, based on Richard Butler's TALC model, in terms of variations in the number of tourists. It also observes the main factors involved in the introduction, growth, maturity, and decline periods, subsequent stagnation, and recovery process of tourism.

2019年、スペインのバレアレス諸島州は年間1645万人の観光客を受け入れた。翌年、コロナ禍（Covid-19）による行動制限の影響で観光客数は約80%減少したが、2022年には1650万人まで戻した。バレアレス諸島の人口は118万人であり、人口のおよそ14倍の観光客を受け入れたことになる。バレアレス諸島は夏冬の季節が明瞭で、観光客は夏のマジョルカ島に集中している。州都があるマジョルカ島には州の人口の約7割が住み、観光客総数の約7割が訪れている⁽¹⁾。1950年代以降、ドイツ、英国、スペイン人を中心に人気の観光リゾートである。住民人口を遥かに超える観光客が訪ねるこの島は、持続可能な観光への転換を模索している。この研究はマジョルカ島が観光地になり、衰退期を経て、回復するまでの諸要因と影響を観察する。ツーリズム発展の過程を、Richard ButlerのThe Tourism Area Life Cycle, TALCモデルに観光客の推移を照らし、観光の導入期、成長期、成熟期、衰退期、特に停滞、回復の過程を社会経済面から観察と分析を行い要因を考察するものである。得られた結果は島嶼部の観光政策の参考になると考える。

尚、この報告書の観光者数について、バレアレス州諸島への到着者数及び訪問者数（visitors）と観光客数（tourists）は区別されており、英語のtourist並びにスペイン語のturistaとあるように観光客数とする。因みにバレアレス諸島を訪問する訪問者数（2015-2022）の64~66%が観光目的となっている⁽²⁾。また、バレアレス諸島州は諸島州であるが、当研究は島単位の社会経済を研究しようとするものであり、バレアレス諸島州の中で最も面積が大きく、観光客数が多く、経済活動が大きい島であるマジョルカ島を対象に議論を進める（図1）。尚、バレアレス諸島州（以下、諸島州）の州都であるパルマ・デ・マジョルカ市はマジョルカ島内にある。マスツーリズムは、第2次世界大戦後の経済発展を背景に、それまで富裕層に限られていた観光旅行が幅広く大衆にまで拡大した現象を指す⁽³⁾。

第1章 地中海の楽園マジョルカ島

スペインのイベリア半島の東岸から約250km、カタルーニャ自治州およびバレンシア自治州の東の地中海上、バレンシア市から直線距離で約260km、バルセロナ市から約210kmの距離にバレアレス諸島州の州都パルマ・デ・マジョルカ市がある⁽⁴⁾。諸島州は大きな4つの有人島と周辺小島からなる、立憲君主制国スペインの自治州制度の州である⁽⁵⁾（図1）。島々は地中海性気候帯に属し、英独を始めとする欧州の人々の間で人気のある観光地になっている。

図2を見るとバレアレス諸島州は1960年から2019年にかけて、約27倍の観光客数が右肩上がりが増えてきたことが分かる。2000年から2010年の間にやや停滞期が見えるが、その後また観光客数は増加し、2019年には1645万人の観光客を受け入れた。

諸島州の人口は約118万人（2022年）、スペインの総人口の2.5%⁽⁶⁾、諸島州の約7割の92.4万人（2021年）⁽⁷⁾がマジョルカ島に住んでいる。州都パルマ・デ・マジョルカ市（以下、パルマ市）の人口は59.5万人（2022）である。

2020年はコロナ禍（Covid-19）による行動制限の影響

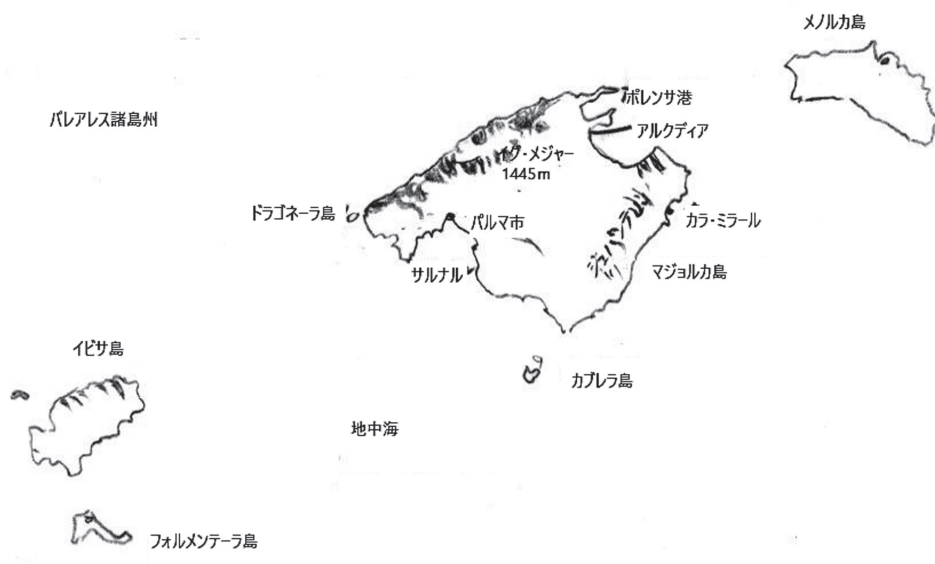


図1 バレアレス諸島州

島嶼の観光地経営の研究

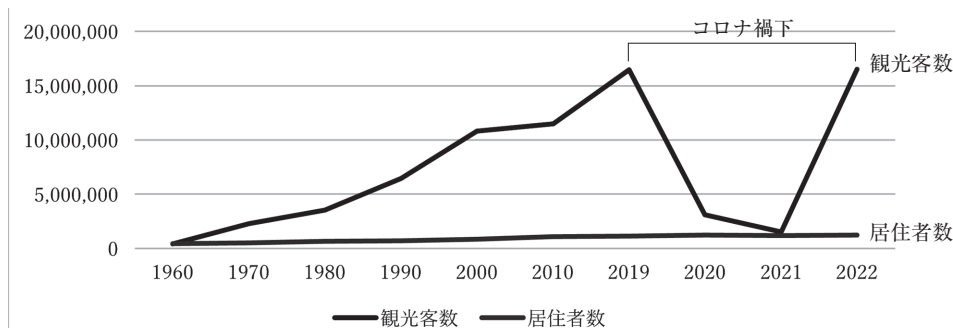


図2 バレアレス州への観光客数と居住者

	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2019	2020	2021	2022
観光客数	400,029	2,270,049	3,550,639	6,443,000	10,804,123	11,466,974	16,453,668	3,115,071	1,497,903	16,507,007
居住者数	439,465	532,942	653,994	708,917	830,428	1,091,656	1,149,460	1,219,423	1,183,415	1,218,441
%観光客増減	100	567	888	1611	2701	2867	4113	779	374	4100
%居住者増減	100	121	149	161	189	248	262	277	269	277

引用： "Effects of overtourism, local government, and tourist behavior on residents' perceptions in Alcúdia (Majorca, Spain)" .
<https://www.researchgate.net/>

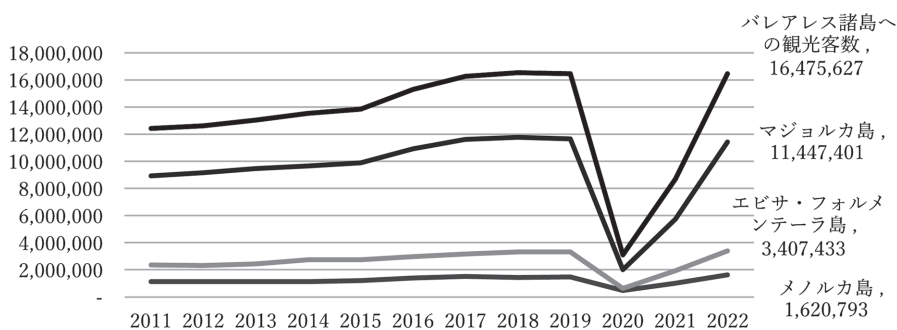


図3 バレアレス諸島の観光客数, 人, IBEST による)

注：2020年と2021年はコロナ禍により減少。2022年は1650万人に回復。

引用： Institut d' Estadística de les Illes Balears <https://ibestat.caib.es/ibestat/inici>

響で約80%まで減少したが、2022年には人口の約9倍の1650万人の観光客数に戻している（図2および図3）。リチャード・W・バトラー（Richard W. Butler）の観光地の発展周期（The Tourism Area Life Cycle, TALC）によると、導入期、成長期、成熟期、衰退期があり、諸島州は1980年から90年代に一度成熟期を迎えたものの再度増加している。バレアレス諸島州の観光地開発はどのように進んできたのであろうか、社会経済、政策面から観察と分析を行い、段階の要因を考察する。

第2章 マジョルカ島の観光開発

(1) バレアレス諸島の地理と気候

バレアレス諸島の面積は4,992km²である。年間降水量は421mm、降雨日数は51日である。6月から8月は乾燥期であり、夏季の平均気温は摂氏約27度、最高平

均気温は摂氏30～32度である。冬季の日中の平均気温は摂氏10～15度と穏やかであるが、夜間には摂氏10～5度まで下がる。パルマ市の年平均気温（摂氏17.9度）は日本の鹿児島市とほぼ等しい。海水の温度は夏季の8月が摂氏25度、冬季の1月・2月が摂氏16度である⁽⁸⁾。平地では年間300日以上が好天日とされており、古くから「地中海の楽園」と呼ばれている。

(2) マジョルカ島

マジョルカ島の魅力の1つは美しいビーチと入り江であり、地中海の美しさと静けさを満喫できる。周囲550キロメートルの海岸には、小さな入り江から長い砂浜まで340カ所以上のビーチがあり、徒歩や海からしかアクセスできないものもあり、自然豊かでロマンチズム溢れる海浜がある⁽⁹⁾。英国、ドイツ、北欧の人々に人気の観光地である。

古代より交易や軍事の拠点として重要な位置を占めた。フランコ政権下にあった第二次世界大戦後(1934-1950), フランコ独裁政権の自給主義を経て観光産業の振興が図られた⁽¹⁰⁾。

(3) パルマ・デ・マジョルカ市 (パルマ市)

パルマ市は年間300日程度が晴天日という気候もあり、多くの観光客を集める観光都市として成長し、マジョルカ島観光の拠点となっている⁽¹¹⁾。航空便によるパルマ・デ・マジョルカ国際空港(以下、パルマ国際空港)への到着者数は年間約2860万人(2022年)に及ぶ。パルマ市は基幹産業である観光とそれに伴った建設業が経済の2本柱となっている。観光産業に特化し、財政は第三次産業に依存しており、第一次産業・第二次産業の衰退が深刻化している。

第3章 マジョルカ島の観光開発の段階

マジョルカの観光開発の歴史

マジョルカ島の観光が記述に上るのは、1809年、サー・ジョン・カー(Sir John Carr)がパルマの旅館(inns)に宿泊したとき、「非常に(宿泊所が)少なく、非常に悪い」と述べている。この頃のフランス海軍、イギリス海軍の軍人は西地中海の支配をめぐる結果の訪問者となっていた(Carr, 1811: 331)。キャプテン・クレイトン(1869)は、島の最高点イグ・メジャー(Puig Major, 1445m)は「山頂一帯の上に高くそびえ立つ『黒い途方もない峡谷』と岩の荒々しい混沌と、地球の奥底から突き上げられ、巨大な頂上がそびえ立っている」と記している(Clayton, 1869: 238)

この島を有名にしたのは、1837年に結核を患ったフレデリック・ショパンが療養に訪れたことである(Sand, 1855)。恋人の作家ジョルジュサンド(マダム・デュドヴァン)が書いた小説「マジョルカの冬」はベストセラーとなり、マジョルカが知られるところになった。多くの旅行者、芸術家、研究者に好まれる、自然の神秘とロマンチックさが欧州人を魅了する訪問地になった⁽¹²⁾。

(1) マスツーリズムの誕生

1950年イギリスのツアーオペレーター、ホライゾンホリディがコルシカ島へ、総費用をパッケージした旅行(包括旅行)を初めて企画し、イギリスのパッケージ旅行(el primer paquete de viajes)の発祥地となる。

(R. J. Buswell 2011)。1955年にイギリスで海外旅行の規制が緩和されるとマジョルカ島にイギリス人観光客が急増した⁽¹³⁾。イギリスのツアーオペレーターが送客し、マスツーリズムの波を創り⁽¹⁴⁾、イギリス人がホテル建設やリゾート開発などの投資も行った(R.J.Busswell 2011: 64)。

(2) マジョルカ島の観光地発展の歴史—19世紀から1949年—

1838年にバルセロナ市とパルマ市の間に海路が開通し、イベリア半島からの乗客の到着が容易になる。1900年から1936年にかけて、マジョルカ島に初期の観光客が現れ、小規模の観光業が誕生する。グラン・ホテル・デ・パルマなど最初の高級ホテルの建設が始まり、カラ・ドール、パルマノバ、シウダー・ハルディンなどの最初の都市開発が行われた。1905年にマジョルカ観光局が設立され、観光教材や研修の提供、観光名所へのアクセス調査、ホテル会社と観光宣伝を開始した⁽¹⁵⁾。

第一次世界大戦の間も観光産業は成長し、1920年代と1930年代に多数のホテルがオープンした。パルマ市のメデテラネオとホテル・ビクトリア、ポリエンサのフォルメントール・ホテルが開業した。1934年以降、ロイヤル、カラ・マヨール、ソラリウスホテルなどが誕生した。当時の観光客は富裕層が多く、滞在期間が長く、そのほとんどが冬季であることが特徴であった⁽¹⁶⁾。

しかし、スペイン内戦(1936~1939年)とその余波により、旅行者の往来と流通は喪失し、経済は打撃を受け、観光客はいなくなった。続く第二次世界大戦(1940~1945年)もヨーロッパ諸国すべてに影響を及ぼし、通信が遮断され、渡航が困難になった⁽¹⁷⁾。

1946年に行われた広告キャンペーン「マジョルカ島のハネムーン」はスペイン国内市場で大成功を収めた⁽¹⁸⁾。1936年以降の独裁政権によりスペイン国家は1951年まで国際的に孤立し、民主主義のヨーロッパにとって魅力的な観光地ではなかった(R. J. Buswell 2011: 49)のである。

(3) スペインの国際化とイギリス発のマスツーリズム—1950年から1990年—

1950年にバレアレス諸島への観光客到着数(推定)が集計され始め、9万8千人(スペイン人7万6千人、外国人2万2千人)⁽¹⁹⁾であった。観光客用ベッドの総数は約5,000(ホテルの客室4,000室、ホテル以外1,000室)であった⁽²⁰⁾。

1951年から1973年にかけて、マジョルカ島の観光産業の成長が始まり、マスツーリズム時代が到来する。同年、国連はスペインの加盟承認を行い、スペインは対外関係の自由化へ舵を執る。米西防衛協定の締結(1953)、国際連盟加盟(1955)、ヴァティカンと政教協約を調印し、アメリカ合衆国に基地貸与を開始する。

1955年にイギリスで海外旅行の規制が緩和され、イギリス人観光客が急増し、イギリス人のホテル建設やリゾート開発が始まった⁽²¹⁾。職を求めて、マジョルカ島内、メノルカ島、ピティウサス島(イビサ島、フォルメンテラ島)のパレアレス諸島の農村部⁽²²⁾や過疎地からマジョルカ島のパルマ市の都市部や観光地への島嶼間移民が1955年頃顕著となる。1956年の土地法は、大規模な都市化と観光建設活動の始まりとなった⁽²³⁾。

1957年と1960年のスペイン政府はホテル建設に寝室、ダイニングルーム、パブリックスペースの広さの基準を規定した(R.J.Buswell 2011: 55)。

1959年、フランコ政権が独裁経済を放棄し、経済安定化計画(El plan de estabilización)(1959)を承認した。通貨切り下げ、新外国投資法(外国投資の承認と促進、外国人の観光産業への参入)を認めた。経済の自由化、銀行融資、金利引下げ、ビザ発給要件、両替業の緩和が行われた。国は領土計画を策定し、土地規制及び都市計画に関する法律を公布した。観光業支援

に公的機関や観光研究所、観光学校が設立された。同経済安定化計画は、パッケージ旅行で来島する観光客市場に、安価で質の高い宿泊施設を提供しようとするホテル経営者の参入の機会となった(R.J.Buswell 2011: 138)。

1960年、最初のジェット機、カラベルSE 210がツアーオペレーターが主催するパッケージ旅行客を連れてパルマ空港に着陸した。チャーター機とホテルの組み合わせが当時の観光マーケティングの鍵となった⁽²⁴⁾。

1961年から1973年の間に、マジョルカ島初の第一次マスツーリズムブームにより、ホテル建設がピークを迎えた。Rullan Salamanca(2005)は、ホテルはイギリス、ドイツ他のヨーロッパの旅行代理店やツアーオペレーターが生み出した市場⁽²⁵⁾に対して、家内産業的な小規模ホテルが一様のサービスで争うものであったという。

1963年、フランコ政府が国家観光拠点法(La Ley de centros de Interes Turístico Nacional)を承認しパルマ市に4つの観光ゾーン⁽²⁶⁾が指定される⁽²⁷⁾。1964年に50万人の観光客が到着した。

1960年代のマスツーリズムブームは諸島に目覚ましい人口増加をもたらした⁽²⁸⁾。観光客の増加は観光産業の夏季への集中と労働市場に影響を与えた(表1)。サパテロ政権下で移民政策が緩和され、マジョルカ島への労働者の流入が増え(R. J. Buswell

表1 パレアレス諸島のマスツーリズムの発展と移住

期間	観光開発の段階	諸島内の移住行動の特徴
1950-1960年	マスツーリズムの始まりと導入	島内および島間の地理的移動タイプ <ul style="list-style-type: none"> 農村地域から観光地や都市地域及び島嶼内陸部への移住 メノルカ島とピティウサス島からマジョルカ島への島間およびマジョルカ島内の移住
1960年以降	マスツーリズムの成長	<ul style="list-style-type: none"> 諸島州内でスペイン本土からの移住者が増加。スペイン人の地方から経済活動が盛んな地域へ。 人口増加と世代の若返りが興る。
1970年から	マスツーリズムの統合	<ul style="list-style-type: none"> 諸島州からスペイン本土への移住が続く。 外国出身の居住移民の第一段階
1990年から	大衆観光の成熟	<ul style="list-style-type: none"> 都市型及び要資格型職業人のイベリア半島への移民の再開 欧州南北からの居住者・移民の増加、北欧からの労働移民が増加する。 非正規かつ無資格タイプの南北労働移民の移動の増加。ラテンアメリカとアフリカからの移民の増加。

出所: Pere A. Salvà-Tomás, Tourist development and foreign immigration in Balearic Islands

<https://journals.openedition.org/remi/1686?lang=en>

注: 筆者が日本語に訳した。

2011:152), ホテル建設ブームが興った⁽²⁹⁾。1961年、五つ星ホテル、ソン・ビダホテルが開業した。国際復興開発銀行の開発計画(1962年)が承認され、投資と公的援助が始まった。米国などの戦勝国は新たな投資市場を得ることになった(R.J.Buswell 2011:1)。農村では地価の安さと農家の住宅供給により農村観光が始まる⁽³⁰⁾。田園地帯はリゾートと認識され、イギリス、ドイツ等のヨーロッパ人の投資家が土地を購入し、山間部の自治体では住民の流出が続いた⁽³¹⁾。同年7月7日、バルマ市東8kmのところにソン・サン・ホアン空港が開港する。この年、400,029人が諸島に到着している。

1973年にマジョルカ島は26万5,680ベッド数(ホテル22万2,680, アパート2万6,000, 未登録1万7,000)に達し、年間の訪問者数は合計285万人、1970年の観光のGNP(国民総生産)は30%近くに及んだ。その内、第三次サービスの合計は65%, 第一次産業は9%であった⁽³²⁾。しかし、1974年から1977年にかけて、「石油危機」が起き、観光客数は7.7%(1976)に減少した⁽³³⁾。

(4) 第2次マストゥリズムブーム

1978年から1988年にかけて第2次マストゥリズムブームが起きる。1978年に大西洋上のカナリア諸島でホテル投資が始まった。ホテル経営者にとって営業キャッシュフローが魅力であり、諸島州の全ホテル施設の約半分をホテルチェーンが占めた。ホテル経営者はその後、カリブ海、リビエラマヤ(メキシコ)へと拡大し、1985年、バルセロ・ホテル・チェーンは、プンタカナ(ドミニカ共和国)に最初のホテルをオープンし、1990年代メリア・ソルグループは中南米カリブに展開した⁽³⁴⁾。新しい国際ビジネス、「バレアレスモデル」の先駆けとなった。

1980年には一部の英国旅行業者の危機(破産)と1985年のスペイン経済危機によりマストゥリズムは下火になった⁽³⁵⁾。失業率は約8%, 内サービス業の失業率は70%(R.J. Buswell 2011)であった。諸島州の長期外国人居住者は82,246人、季節性居住者約78,000人の総数約160,000と見込まれた。その内、欧州からの長期外国人居住者は66%, ラテンアメリカからの移民は労働者および起業家になり外国人居住型移民施設が増えた⁽³⁶⁾。

景気減速は、英国のサッチャー氏が推進した新自由主義政策と1990年のスペインの金融バブル後のペセタ切り上げは社会経済の再編を加速させた。1992年の通貨切り下げのプロセスと地域金融システムの構成(マース

トリヒト条約)から、バレアレス経済は次の成長段階に入り、1996年の実質GDPの成長率3.8%は1年後に6%に上昇した(GINARD Xavier et al. 2015:309)。

(5) 地方自治の高まりと観光産業の政治参加

バレアレス諸島州への自治権の到来(1983年)により、マジョルカ島の沿岸の土地開発は規制され、観光価格の自由化は観光経済に打撃を与え、諸島州政府の責任が問われることになった。ホテル業界はスペイン中央政府でロビーを形成するようになった⁽³⁷⁾。

1983年、第2次マストゥリズムブームの中では、マジョルカ島の経済に観光が重要であり、観光産業が地元の政治、財政政策に影響を及ぼすようになった⁽³⁸⁾。

外貨による島嶼の観光地の購入は非関税による投資インセンティブとなり、近代的な航空機による飛行時間の短縮、ヨーロッパの中産階級が手頃な価格で商業航空を利用する時代に入った。マジョルカ島では新しい宿泊施設の建設が規制される一方、別荘用コンドミニアムの建設が増加した⁽³⁹⁾。

1984年にバレアレス政府は、クラデラ第1号(Cladera I)令で建設規制に踏み出した。マジョルカ島では、観光複合施設を建設するときは、ゲストひとりあたり最低30m²の土地面積を必要とするとした。1987年、クラデラ第2号(Cladera II)令では、更に60m²に引き上げられた⁽⁴⁰⁾。1987年から2000年の間、バレアレス諸島の埋め立て地の増加率は61.65%であり、スペイン自治州の平均が34.07%である中、2番目に増加率が高い自治州となった(R. J. Buswell 2011:55)。

1980年代後半から1990年代にかけて、クルーズ船とクルーズ客数と規模が増加する。スペインのECへの加盟(1986年)、資本の自由化、関税が撤廃され、原油価格が低下すると、バレアレス諸島の成長は刺激され、外資投入が盛んになった。諸島州は、産業や農業、漁業活動に損害を与えながらも、土地政策と不動産開発が進めた(R.J.Buswell 2011:5)。観光事業者は高い利益を追求し、観光客用アパートなど労働集約度の低い事業方式を採用した。(R.J.Buswell 2011:2)建設業の再開により失業率は10%未満に収まった⁽⁴¹⁾。

1993年から2000年にかけてマジョルカ島には第3次観光ブームが起こった。観光客数は1993年の710万人から2000年1040万人に増加した⁽⁴²⁾。

この頃、旅行代理店や建設業による大規模ホテルチェーンの垂直統合、歴史的、言語的關係の深いラテンアメリカ諸国への展開、世界経済の自由化、諸島内

投資の促進による土地開発が進む。(Lopez Nadal, G. and Maturana Bis, F., 2008) (43)。新しい国際ビジネスの多くは、マジョルカ島内のホテル会社が大量観光向けかつ高収益のパレアレスモデルを輸出したことであった。しかし、マジョルカ島内での外部資金の高まりと、マジョルカ島生まれの世界的企業が国内の環境に関する責任に向き合わずに海外に投資していると、島民から強く批判された(Serra,2009:130-132) (44)。

他の観光戦略は旅行会社との提携であり、バルセロ社はイギリスのファーストチョイス社と、ルイ社はドイツの同業者TUIと緊密に連携した。ソル・メリアグループは国外で運営や委託をフランチャイズ化し、他業界とビジネスを組織し、証券取引所に上場し、経済活動を融合した(R. J. Buswell 2011:148)。

1997年にマジョルカ島の30の沿岸地域を対象としたPOOT(観光客オファー管理計画)が承認された。POOTは、土地と天然資源の物理的限界に基づき、観光客用別荘などの住宅の増加を阻止し、観光地を海浜から内陸部への転化を目的としていた。パレアレス政府の都市計画による規制と相まって、1998年の宿泊施設の開発を遅らせた。1999年、一般観光基本法が成立し、新規ホテルの規制と刷新を目的にした。しかし、規制されない別荘施設が増えることになった(GINARD Xavier et al. 2015:319)。一方、1999年と2000年、マジョルカ島への観光客の到着と滞在は増加したが(45)、2001年に新たな経済危機が始まり、パレアレス諸島への影響は2003年まで続いた。

この期間の環境への取り組みは環境と天然資源の保護への政治的決定であり、観光客用別荘の増加に反対する声も上がった。2004年の中欧・東欧のEU加盟により市場が拡大し、国際航空ネットワークが急速に拡大した(46)。2005年には観光客数の増加が更新された。しかし、2009年には第3の危機となる世界金融危機が起こり観光活動は停滞し、外国人観光客数は横ばい、国内観光客も減少し、夏の観光活動は鈍化し、冬の季節が若干増加したのみであった(47)。

Ⅲ、小括

マジョルカ島と観光の特徴は1955年以降のイギリス人観光客の大幅な送り出しとイギリス人の投資に始まったと言える。マジョルカ島の観光開発の成長のはじまりはフランコ政権の自給主義の行き詰まり、通貨ペセタと経済の弱体時にあった。ヨーロッパでは第二次世界大戦後の社会的および経済的進歩によるレ

ジャー市場の成長時、つまり、可処分所得の増加と余暇または非労働時間ならびに発地国の人口増加があった。手頃な費用で過ごしたい観光客を受け入れるためにマジョルカ島では三つ星ホテル建設をはじめとするマストゥリズムに対応する観光構造があった(48)。つまり、観光客の増加と外部資本の流入はマジョルカ島への移住者、建設と雇用、移民を増加させ、同時に島のエネルギーと水の消費、輸入とごみ、環境棄損と規制を増加させた。それは、観光客の増加に付随したビジネス投資モデルの影響といえよう。やがて、マジョルカ島のホテル会社は国際企業となり、マストゥリズムを誘発する国際ビジネスモデルをカナリア諸島やラテン諸国に輸出した。景観、良好な気候の不動産物件を舞台とした、観光の経済グローバリゼーションの移転といえる。

参考文献

- Carr, J. (1811) *Descriptive Travels in the Southern and Eastern Parts of Spain and the Balearic Islands in the year 1809*. London: Sherwood, Neely and Jones.
- Clayton, J. (1869) *The Sunny South: An Autumn in Spain and Majorca*. London: Hurst & Blackett.
- GINARD, Xavier; MURRAY, Ivan, *El metabolismo socioeconómico de las Islas Baleares, 1996-2010*. Fuhem, Ecosocial (2015): 307-383
- R.J.Buswell, *Mallorca and Tourism, History, Economy and Environment*. Channel View Publications, (May 2011)
- Rullan Salamanca, O. (1989) *El Comportanment municipal de l'oferta de places turístiques a Mallorca entre 1965 i 1985*. Treballs de geografia 41, 99-105.
- Sand, G. (1956) *Un hiver en Majorque. Winter in Majorca Valldemossa*. (R. Graves, trans.) (original work published 1855)

(1) 2017年から2022年のパレアレス諸島の観光者の内マジョルカ島への比率は64.5%~71.1%、平均値68.8%であった。IBESTAT 2023年10月26日閲覧 https://ibestat.caib.es/ibestat/estadistiques/043d7774-cd6c-4363-929a-703aaa0cb9e0/3f1887a5-b9b7-413b-9159-cb499cf29246/es/I208002_n301.px

- (2) PLAN INTEGRAL DE TURISMO DE LAS ISLAS BALEARES 2015-2025 p5
- (3) 1950年代に米国で現れ、その後、欧州に広まった (JTB総合研究所, 観光用語集)。
- (4) 北緯39度30分 東経 3度00分
- (5) バレアレス諸島州 (Illes Balears) は、北にフランス、東にはフランスのコルシカ島、イタリアのサルデーニャ、南にはアルジェリアと国境を成している。マジョルカ島 (Mallorca) , メノルカ島 (Menorca) , イビサ島 (Ibiza) , フォルメンテラ島 (Formentera) の四つの大きい島がある。周辺にはカブレラ島, ドラゴネラ島, エスパルマドール島などがあり, カブレラ諸島海陸国立公園もある。4島には島議会 (consell insular) という州の行政区分があり, 州全体には50の基礎自治体 (municipio) がある。
- (6) 自治法, 1983年3月1日, 2007年3月1日。
- (7) IBESTAT 2023年10月26日閲覧
https://ibestat.caib.es/ibestat/estadistiques/043d7774-cd6c-4363-929a-703aaa0cb9e0/3f1887a5-b9b7-413b-9159-cb499cf29246/es/I208002_n301.px
- (8) マジョルカ地中海の宝 <https://castellsonclaret.com/es/que-ver-en-mallorca/>
- (9) 前掲 (8)
- (10) El Turismo en Mallorca, historia y desarrollo
<https://diariobalear.com/local/mallorca/el-turismo-en-mallorca-historia-y-desarrollo/>
- (11) パルマ市はCsa型地中海性気候に属し, 市の郊外や標高の高い地域で降水量が多い。夏は暖かく乾燥し時折雨が降る季節である。高さ1,000メートルを超える山々がトラモンタナ川の北風から内陸部を守っている。春の終わりには温暖になる。https://es.wikipedia.org/wiki/Palma_de_Mallorca
- (12) 前掲書 (8)
- (13) 富川久美子 (2013), “ドイツの観光市場における島嶼の発展と観光形態の変遷”, 地理科学 68 (4) : 264-284
- (14) 前掲書 (13)
- (15) El Turismo en Mallorca, historia y desarrollo
<https://diariobalear.com/local/mallorca/el-turismo-en-mallorca-historia-y-desarrollo/>
- (16) 前掲書 (15)
- (17) 前掲書 (15)
- (18) Historia breve del Turismo en Baleares 1950-2012
<https://www.euromundoglobal.com/noticia/173885/aviacion-y-turismo/historia-breve-del-turismo-en-baleares-1950-2012.html>
- (19) 前掲書 (18)
- (20) 前掲書 (18)
- (21) 前掲書 (13)
- (22) イチジク, イナゴマメ, アーモンドなどの珍しい樹木作物を生産し, 他のはブドウとオリーブ油を生産していた。
- (23) 前掲書 (18)
- (24) 前掲書 (18)
- (25) 1970年代から1980年代には, イギリスに続きドイツの旅行会社によるパッケージツアーが増加した。マガルフ (Magaluf) やサレナル (s' Arenal) などでは英語表記の看板が, プラヤ・デ・パルマ (Platja de Palma) やアルクデーア (Alcudia) などではドイツ語表記の看板を見るようになる。
<https://en.wikipedia.org/wiki/Mallorca>
 2023年10月29日閲覧
- (26) ボディア・ノーバ (アルタ市), ラス・ガビオータ (ムーロ), カラス・デ・マジョルカ (マナコール) が7.25km²の範囲で観光都市開発地として承認を得る。
LAS PRIMERAS FASES DEL TURISMO DE MASAS: EL CASO DE BALEARES 1955-1975. Francisco Colom Montero GRADO DE TURISMO Any acadèmic 2014 - 15
https://dspace.uib.es/xmlui/bitstream/handle/11201/3052/Colom_Montero_Francisco.pdf?sequence=1
- (27) ホテルが, カルビアと同様に, パルマ湾, ポレンサ湾, アルクデーア湾の海岸線沿いに集中的に建築された。東部はカブデペラからセス・サリネス岬までの海岸で, 計画も土地管理も行われず, 最初の海岸線を占め, 環境と景観環境を大きく変えた。
- (28) INE (National Statistics Institute) による国勢調査によると, 1960年から1970年の間にスペイン国内の他州では11.8%増加しているが, バレアレス諸島の人口は25%増加している。イベリア半島南部からの労働者の雇用であった。(R.J.Buswell 2011:2)。
- (29) 1945年から1960年にかけてのフランコ政権下のスペイン政府は, 旅行者と政府, 公務員との癒着があったと指摘する。1960年代には, ホテル経営者は選挙で選ばれど議員よりも強力になり, 場当

たりのな計画が目立った (Pack, 2006a: , 173; Rullan Salamanca,1989: 99-105)。

- (30) ドイツ人とイギリス人は、両者とも田舎を好み、アウトドア活動、レクリエーション、リラクゼーションと歴史的に関心が高く、起源は少なくとも19世紀のロマン主義時代にまで遡る。スペイン人は少なかった。
- (31) 旧英国植民地の外交官や金融機関が農家や小屋を買い占めた。家事やガーデニングの手伝いは一日数ベセタで雇うことができた。豊かになった農村の住民はバルマ市や郊外の海岸沿いの町に移住した。田園地帯の再建放棄は農地を田舎のホテルやアグリツーリズムに転換し、島内投資の波の先駆けとなった。(R.J.Buswell 2011:165)
- (32) 前掲書 (10)
- (33) 前掲書 (10)
- (34) 前掲書 (10)
- (35) 前掲書 (10)
- (36) バレアレス諸島の人口 https://en.wikipedia.org/wiki/Balearic_Islands#cite_note-40
- (37) 前掲書 (10)
- (38) 前掲書 (10)
- (39) 前掲書 (10)
- (40) 前掲書 (10)
- (41) GINARD, Xavier; MURRAY, Ivan, *El metabolismo*

socioeconómico de las Islas Baleares, 1996- 2010. Fuhem, Ecosocial (2015) : pp.307-383

- (42) 前掲書 (10)
- (43) キューバはソ連とロシアの影響力の衰退後、復活した観光産業が対内投資を促進した特別なケースのようなものであった
- Lopez Nadal, G. and Maturana Bis, F. (2008) *Fenicios en una renovada Carrera de Indias.Crisis y problemas en el mund atlantico, 1808-2008*, pp.26-29 August 2008.
- (44) Serra, A. (2009) *The expansion strategies of the Majorcan hotel chains*. In I. Segreto, C Manera and M. Pohl (eds) *Europe at the Seaside: The Economic History of Mass Tourism in the Mediterranean* (pp.125-143) .New York: Berghahn Books.
- (45) 前掲書 (10)
- (46) 国土交通省 (p9) <https://www.mlit.go.jp/pri/houkoku/gaiyou/pdf/kkk141.pdf>
- (47) 前掲書 (10)
- (48) 前掲書 (10)

七枝 敏洋 (総合生活デザイン学科)
(受理 2023年10月31日)

